

ピュアライド UVプロテクト MKクリヤー
超低汚染セラミックハイブリッド無機系外壁保護クリヤー

□ 特 長

- ・弱溶剤系であるため、臭気がマイルドで、下地を選ばずに塗装できます。
- ・乾燥が速く、作業性にすぐれています。
- ・デザイン性の高いサイディングボードの美しさをそのままに、さらに長持ちします。
- ・高耐久性に優れた 2 液形セラミックハイブリッド無機系塗料です。
- ・耐汚染性、耐紫外線性、耐薬品性にすぐれています。

□ 塗 料 性 状

色		塗 料 液 (主 剤)	硬 化 剤			
色		淡黄色	無色			
密度(g/cm³)(23)		0.94				
光 沢		つや有り、3 分つや有り				
引 火 点		48	44			
発 火 点		190 (参考値)	200 (参考値)			
消 防 法 表 示	化 学 名	合成樹脂クリヤー塗料	合成樹脂クリヤー塗料			
	危険物区分	第4類 第2石油類(非水溶性)	第4類 第2石油類(非水溶性)			
	危険物等級	III (火気厳禁)	III (火気厳禁)			
有 機 溶 剤 区 分		第3種	第3種			
毒 劇 物 表 示		-	-			
有 害 物 表 示		-	ポリイソシアネート			
国 連 / 指 針 番 号		1263/128	1866/128			
環 境 性 能	ケルチン	配合せず 0.4%	ホルムアルデヒド	配合せず	トルエン	配合せず
	キシレン		パラジクロロベンゼン	配合せず	エチルベンゼン	配合せず
	スチレン(モノマー)	配合せず	フタル酸ジ-n-ブチル	配合せず	テトラヒカ	配合せず
	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	配合せず	ジアジノ	配合せず	アセトアルデヒド	配合せず
	フェノール	配合せず	鉛	配合せず		
T V O C		48.1%				

- ・塗料性状に記載の数値は、全て代表的な色相、つやを想定しています。

□ 塗 装 基 準

混 合：
荷 姿：
ポットライフ：
希 釈 剤：
塗 装 方 法：

2 液形のため、「塗料液(主剤)：硬化剤 = 4：1 (重量比)」に混合し、十分にかくはんしてください。
15kgセット(塗料液(主剤)：硬化剤=12kg：3kg)、3kgセット(塗料液(主剤)：硬化剤=2.4kg：0.6kg)
6時間(23)
塗料用シンナー-A

塗 装 方 法	エアスプレー塗り	エアレススプレー塗り	はけ、ウールローラー塗り
希 釈 率	20～40%	5～10%	0～10%
使 用 量	0.12～0.14kg/m ² /回	0.12～0.14kg/m ² /回	0.12～0.14kg/m ² /回

- ・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
- ・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

乾 燥 時 間：

	5～10	23	30
指 触 乾 燥	1時間	30分	20分
塗 り 重 ね 乾 燥	4時間以上	4時間以上	3時間以上

- ・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

□ 注 意 事 項

- ・被塗面の洗浄やエフロレッセンスの除去に酸性洗浄剤・アルカリ性洗浄剤などの薬剤を用いる場合、薬剤洗浄前に被塗面に十分に水を含ませてください。薬剤洗浄後の水洗工程は、高圧水洗もしくはブラシなどを用いて入念に行ってください。薬剤が壁面に残存したまま本品を塗装しますと塗膜の縮み、白化、はく離を起こすおそれがあります。水洗後、塗装面のpHを確認する場合は、pH試験紙を塗装面に押し当てて測定してください。なお、被塗面によっては、被塗物を痛める場合があるため、事前に目立たない箇所で試し洗いをし、問題ないことを確認した上で実施してください。
- ・つや調整品では、つや消し剤が沈降している場合や、保管状態によっては軽度凝集する場合があります。缶の天板を切るなどしたうえで、全体が均一になるよう電動かくはん機を用いて十分にかくはんしてください。
- ・つや調整品を使用の際、吸い込みが著しい場合には、乾燥後吸い込みむらによる目地部の白化（つや消し剤のたまり）を生じることがありますので、1回目の塗装時に表面に塗膜が残らないような場合はつや有りを増し塗り、もしくは2コートして吸い込みを止めてから上塗りを塗装してください。下塗りには必ずつや有りを使用してください。つや調整品を下塗りに用いますと前述の目地部白化が生じやすくなります。
- ・光触媒が施された下地には適応しておりません。早期の塗膜劣化や経年での剥離など不具合を生じる場合がありますので塗装を避けてください。
- ・つや調整品を使用する場合は上塗り1（中塗り）に「つや有り」をご使用ください。つや調整品を2回塗りしますと、つやむらが生じることがあります。
- ・塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ・シーリング面は、マスキングテープなどで養生を行い、塗装を避けてください。シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、収縮割れなどの不具合を起こすことがあります。
- ・吸い込みやすい基材では使用量が多くなります。
- ・経年したサイディングボード面への塗装は、劣化が進行しており、表層内劣化部からはく離するおそれがあります。試験施工をおこなって付着性を確認してください。
- ・目地部が深く、ローラーなどで入りきらない場合は、目地はけなどで塗装してください。
- ・目地部の塗料たまりや被塗面にダレを生じた際は、目地はけ、ローラーなどでむら切りし、除去してください。
- ・塗装後は濡れ肌になるため、既存色より濃くなりますのでご了承ください。特に劣化が著しい場合は色調の復元にばらつきがあります。不安な場合は試験施工を実施して仕上がりをご確認ください。
- ・仕上がりむらになりやすいため、ニッペカラーマックスF Aや各種現場調色用着色剤を使用して調色することは避けてください。
- ・サイディングボードのクリヤー仕上げは下地の状態をそのまま表出してしまうため、下地の劣化が著しい場合はおすすめできません。ヘヤクラックや釘頭のさびなどの発生がなく、かつ築後10年以内であることをいちおうの目安にしてください。
- ・下塗り材にエポキシ樹脂塗料（ニッペ浸透性シーラー（新）など）は使用しないでください。変色、はく離の可能性あります。
- ・本製品は、優れた性能を発揮させるために、非常に敏感で強固な反応をするように設計されています。水やアルコール類が、塗料液や硬化剤に混入しないようにしてください。また空気中に含まれた水分や湿気とも敏感に反応します。必ず密栓し、冷暗所に保管してください。開缶後の、マスカーなどでの封では不十分です。
- ・長期間の保管（6カ月以上）は避けてください。また、開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ・サイディングボードのコーナーエッジやジョイント部に塗膜がはがれている場合は、ファインウレタンU100やファインシリコンフレッシュで補修した後にクリヤーを塗装してください。補修用として1液タイプをご利用の場合は、塗装後必ず1日以上乾燥させてください。縮む可能性があります。
- ・釘頭が出ている場合は1液ハイボンファインデクロ+ファインウレタンU100などを施した後クリヤーをかけてください。さび止め塗装した上にクリヤーをかけることは決してしないでください。
- ・水洗後晴天下で必ず1日以上乾燥させてください。乾燥が不十分である場合、クリヤー仕上げのためボードに残った水分の影響による外観上の不具合が目立ちやすくなるおそれがあります。
- ・つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
- ・つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通して塗装してください。
- ・過剰希釈をすると本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の●本書類の内容については、予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書類中の製品名・会社名は、日本ペイント株式会社、その他の会社の●Copyright (c) 2014 Nippon Paint Co., Ltd. All rights reserved.

- 希釈量をまもってください。
- ・つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
- ・つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
- ・被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
- ・塗装面を部分補修する際には、硬化剤の入れ忘れにご注意ください。汚染むら発生の原因になります。
- ・溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気をしてください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者へのご配慮をお願い致します。
- ・所定のシンナー以外を使用したり、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
- ・硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
- ・塗料を扱う場合は、皮膚に付着しないようにご注意ください。また、蒸気やミストなども吸い込まないように十分にご注意ください。
- ・塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合（高湿度、結露、降雨など）、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
- ・旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- ・素地の乾燥は十分に行ってください。
- ・塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。
- ・屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- ・塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- ・飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ・大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- ・汚れ、さびなどにより補修塗りが必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ・ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- ・可塑剤が多く含まれる塩ビクロス、塩ビゾル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
- ・塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- ・開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ・塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ・製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。